

日本共産党 青森市政だより

発行 日本共産党青森市議団
〒030-0822 青森市中央1-22-5 市議会日本共産党控室

連絡先

市議会日本共産党控室 ☎ 017-734-1111
(内線) 6017
直通・FAX 兼用 ☎ 017-722-8904
メールアドレス kyouasant@mail2.actv.ne.jp
日本共産党東青地区委員会 ☎ 017-777-7241

ご意見・ご相談をお気軽にお寄せ下さい。

議会 報告



ムラサキヤシオツツジ

中学生までの子どもの医療費無料化決定 市民の声が議会を動かす



24日本会議・中学生までの医療費無料化採択の様子

議会開会前に、党市議団と市民は大矢議長のもとを訪れ、市民とともに集めた「市長提案の実現を求める緊急署名」2534人分を提出しました。これはわずか一週間で、非課税世帯のみを対象とした。これはわづか一週間で、非課税世帯のみを対象とした。

市議会定例会最終日の3月24日に「子どもの医療費無料化を中学卒業まで拡充」する条例案が、共産党、新政無所属の会、社民党などの賛成多数で可決しました。市長提案に対し、自民清風会・公明党・市民クラブは、対象世帯を非課税世帯のみに限定する修正案を提出し、反対していました。賛成18、反対12、退席4で可決され、今年8月から中学卒業までの医療費の無料化実施が決定しました。

自・公・市ク提案

非課税世帯限定修正案は否決

する修正案が提出され、山脇智市議長が質疑を行いました。質疑の中で山脇市議は「修正案では、子育て支援策としても不十分で、人口減少対策、短命県返上などの効果はまったく期待できない」ことを指摘しました。

さらに「非課税世帯に限定した場合、事業費が2350万円余りとなり、国の交付金7700万円のうち、5000万円以上を返還しなければならなくなる」ことを明らかにしました。

中学生までの医療費無料化に対する賛否

採決の結果、市長提案が可決され、修正案は否決されました。採決の瞬間、傍聴に駆けつけた市民から大きな拍手が沸きました。

中学生までの医療費無料化に対する賛否

賛成の議員 18人	反対の議員 12人
【日本共産党】 藤原 浩平 舘田 瑠美子 村川 みどり 葛西 育弘 天内 慎也 山脇 智 【社民党】 斎藤 憲雄 仲谷 良子 藤田 誠	【自民清風会】 長谷川 章悦 小豆畑 緑 里村 誠悦 中田 靖人 【市民クラブ】 木下 靖健 工藤 祥孝 奈良 美虎 竹山 義長 【公明党】 赤木 伸広 渡部 武朝 山本 智雅 軽米 雅子
【新政無所属の会】 小田 桐金三 丸野 達夫 奥谷 進 小倉 尚裕 中村 節雄 奈良岡 隆 中村 美津緒 【市民クラブ】 秋村 光男 【無所属】 橋本 尚美	

【退席4:自民清風会 花田明仁、渋谷勲、木戸喜美男、舘山善也】

時 潮

民生環境常任委員会で「子どもの医療費を中学卒業まで拡充する条例の改正案」の審議が行われた。当初、共産党のみが「賛成」し、他党派は「継続審査」とした。しかし、国の緊急経済対策交付金を活用するには、この議会で議決しなければならぬことを知った他党派の議員が、あわてて「再審査」を要求し、3月19日再審査が行われることになった。東青社保協の呼びかけで、緊急の昼休み集会を開き、「委員会を傍聴しよう」と。当初、10人しか委員会室に入らない、と言われたが、「市民に開かれた議会にするべきだ」と交渉し、委員会室に30人、隣の委員会室にも30人が入るようになり、手配してくれたのだ(感謝)。当日、4ヶ月の子をおぶり2歳の子の手を引いて来てくれたママや、まもなく4人目の子を出産予定のママや、二人目を授かったばかりのママたち、孫たちのためになんとしても無料化実現してほしい!と叫び、駆けつけた方々などが傍聴。9年前、国保税の引き上げで委員会に傍聴に来た市民が「前は7人しか入れてもらえなかったのに、今回30人も傍聴できて、変わるもんだの、感激した」と。

住民が求める医療の存続を

天内しんや



市民病院と浪岡病院などの公立病院は、不採算部門など、民間では医療を提供することが難しい、非効率的だが地域に必要な医療も担っている。また、全国を見ても医師の確保が困難な中、地域医療を存続させる為に頑張っている公立病院に対して、3年間で経営効率化を、再編では5年間の目標とする、公立病院改革プランを策定することを、総務省は求めています。その改革プランを基に、市は経営改善計画を策定し、立て直しの努力をしてきましたが、医師不足が大本にあり、経営改善につながっていないのが現状です。こう

した地域医療の実態に対し、今回更に経営効率化や再編を押し付ける内容となっている、「新公立改革プラン」が示されます。天内しんや市議は、3月6日の一般質問で「本市の地域医療にどのような影響を与えるのか」と市の見解を求めました。安保市民病院事務局長は答弁で「現在方向性だけで、詳細はまだ示されていないとしながらも、これまでの改革プランの内容を継承していく」としました。その内容として、「県が策定する地域医療ビジョンのガイドラインと連携して、公立病院が果たすべき役割を明確化し、経営の効率化・病院間のネット

ワーク・経営形態の見直しを更に推進していく」とし、「今後国から示される新たな内容を踏まえて、新改革プランを策定する」と答えました。天内市議は、県が推進していく地域医療ビジョンの問題点を指摘し、「公立病院が担っている医療機能と、ベッドの稼働数を県に報告する制度が開始されたことにより、過剰な医療機能に転換しようとする場合や、稼働していない病床の削減については、命令することができないことになり、地域住民が求めている医療機能から遠ざけるものにならないようにしてほしい」と強く求めました。

市営住宅建て替え

あらたな計画の策定急げ

山脇さとし



本市の市営住宅の建て替えや改善の大きな計画については、青森市営住宅ストック総合活用事業に示されています。本計画は平成21年度から平成27年度までが計画期間となり、今年が計画期間の最終年度となっています。しかしながら、市営住宅の建て替えや改善は計画から大きく遅れている状況があります。山脇智市議は「平成28年度以降の市営住宅の整備スケジュールについて、具体的なものが示されていない。今後の市営住宅の建て替えについてどのように考えているのか」と市の見解を求めました。工藤雅史都市整備部長

は「建て替えを優先にすすめており、現在着手している小柳市営住宅第一団地の建て替えが平成35年度に終了する予定となっている。財源の問題から、同時並行による市営住宅の建て替えは難しいものと考えている」と答えました。山脇市議は「現在の計画では、建て替えが実施されていなければならぬ、桜川団地の建て替えなどは、大幅に計画から遅れてしまう。また全面的な修繕が必要な市営住宅もかなりの数に上っている。今後の計画を策定するにあたり、もっと財源を増額して、もっと早くに修繕や建て替えがすすめられるようにするべきだ」と強く求めました。

藤原 浩平

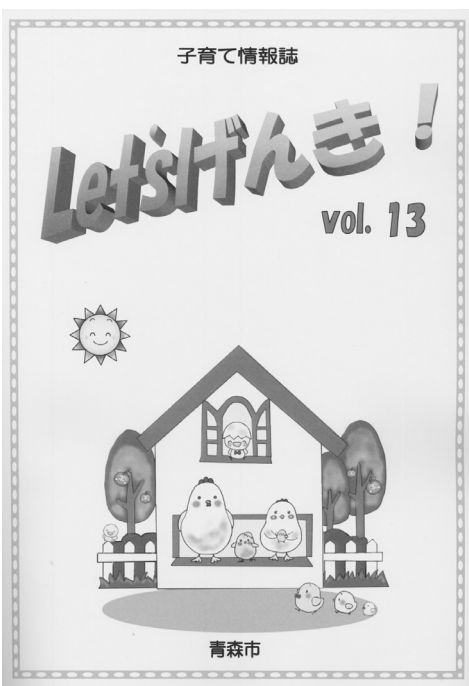


病児保育所が2ヶ所増設へ

利用者へのわかりやすいお知らせを

青森市は、2015年度から市内東部地区及び西部の浪岡地区に病児保育所（風邪や発熱など病気の子どもを一時的に預かる保育所）を増設することを明らかにしました。増設されるのは、蜷貝保育園（青柳1丁目）、瑞穂保育園（浪岡女鹿沢稲本）の2ヶ所です。日本共産党の藤原浩平市議の質問に答えたものです。藤原市議は、増設されたことを評価ながら利用の仕方などがよくお知らせてきていないこともあり、利用に二の足を踏んでいる状況もあるとして、周知の徹底、利用し

これに対して能代谷健康福祉部理事は「できるだけわかりやすいものを作り、あらゆる機会を通じて周知したい」と答えました。青森市では、「子育て情報誌 Let'sげんき！」



子育て情報誌 Let'sげんき！

子育て情報誌「Let'sげんき！」を母子健康手帳交付時に渡したり、各保育所に置いたり、転入者にも渡して周知につとめています。

村川みどり



除雪困難な人なら

だれでも利用できる福祉除雪を

館田るみ子



日本共産党市議団が、福祉除雪の実施を求めている。市は25年度から屋根の雪下ろし費用の助成を始め、今冬から青森地区でも間口除雪の支援を開始しました。しかし、二つの福祉除雪の実施状況をみると、利用者が少なすぎます。屋根の雪下ろしの対象者は、非課税世帯の65歳以上の高齢者のみの世帯等ですが、市内に18歳以上の子・孫及びそれらの配偶者が住んでいれば対象になります。また、間口除雪についても非課税世帯の75歳以上の高齢者や隣接する町会に3親等以内の親族がいれば対象外です。館田るみ子市議は「秋田市は屋根の雪下ろし助成は、親族要件を設けていない。鹿角市（かづの）はご近所や親戚から除雪支援を受けられず、除排雪に困っている方になっっている。せめて、除雪に協力できる親族が近

くにいない場合というように緩和すべきでないか」と求めました。赤垣敏子健康福祉部長から「福祉除雪については、毎年度総合的に検証することになっているからその中で検討していく」と答弁がありました。館田市議は「間口除雪を五所川原市や秋田市、鹿角市などのように、シルバー人材センターに委託して低料金で実施しているところもある」と紹介し「青森市のシルバー人材センターでは、登録しても2年も仕事が終わってこないという声も寄せられているので、いくらか費用負担があっても利用したいという世帯の除雪はシルバー人材センターがおこなったかどうか」と提案し、検討を求めました。赤垣健康福祉部長は「今冬の実施状況の検証の際に、どういうふうなやり方が高齢者等が一番いいのか検討していきたい」と答えまし

介護保険料

15・3%アップ
中止求める

3年ごとに改定される第6期介護保険料が決定しました。村川みどり市議は、実質4・48%もの大幅削減となった介護報酬引き下げに対する市の認識と、介護保険料の引き上げは中止すべき、と質問しました。赤垣健康福祉部長は「持続可能な社会保障制度の観点からは評価できるものであるが、一方で介護報酬を受け取る事業者にとっては、少なからず影響が及ぶものと考えている」と答弁。第6期介護保険料は、基準額で6394円15・3%もの値上げとなりま

に対して、反対したのは日本共産党のみでした。国は当初、低所得者対策として、第1・第3段階（非課税世帯）を対象に、国の負担分とは別枠で財源を投入することを表明していました。ところが、突如、平成29年度まで延期することになりました。村川市議は、国に予定通り実施を申し入れるべきだと指摘しました。さらに、全国の自治体では、国の補填を充てて、せめて低所得者の保険料の上昇は抑えようと保険料改定作業を行ってきたが、突然の延期で、それならば自治体独自で

一般財源の投入を認めるよう国に求めましたが、「それは認められない」という通知まで発行しました。そもそも国が実施するといった低所得者対策を反故にしながら、自治体独自の実施は認められない、というのは、自治体に対する恫喝とも言える行為です。弘前市は、県内で一番高い介護保険料を今期は「値上げ」せず、一般財源を投入することを決定しました。村川市議は、弘前市と同じように青森市も一般財源を投入し、介護保険料の値上げを中止すべきだと求めました。

かさい育弘



毎年同一の場所で問題が発生

作業計画書の活用で改善を

今冬も、大変な豪雪となり、市民のみなさんから、雪問題について、様々な意見や要望が寄せられました。

前一般質問でパネルも示して対策を求めている場所なので、驚いている。1月16日に撮影された写真で、私が話を聞き現場に見に行ったときにはすでに1カ月経過していたが、解消されていず、指摘をしてようやく対応してもらった」と指摘。その上でかさい市議は「昨冬と同じ問題が起きた原因は『担当業者が変更になっていた』ということだが、作業計画書による引継ぎが有効になされていないかと思うが、どのようか考えているのか」と質問しました。櫻庭都市整備部理事は「当該路線は、今年度除排雪業者が変更となったこともあり、昨冬も雪盛りがあり、道路交通に支



雪盛りによって2車線がふさがれた交差点

る問題について、質問しました。かさい市議は、雪盛によって、直進車線、右折車線の二車線がふさがれている交差点について「この現場は、昨冬も他の市民から指摘された場所と全く同じで、私が以

障があったことを口頭で説明していた。しかし今冬も同様の状況となったことを踏まえ、作業計画書について、今後は除排雪事業における課題、注意事項、過去の事案等について口頭ではなく、特記事項として記載するなど、作業計画書の有効活用に努める」と答弁しました。

かさい市議は「市民のみなさんにとっては毎年、同じ場所と同じ問題が起こっていて、一向に改善されないのでは、苦情も怒りも当然です。今回の改善で、来冬、特記事項が記載された作業計画書が円滑に引き継がれ、同じような問題で市民から苦情がくるようなことがないようにするべきだ」と強く求めました。

青森駅周辺
整備事業

事業費1.5倍123億6千万円

東西自由通路
駅舎建替え

不要・不急、中止を

「青森駅周辺整備事業」の事業費が、当初予定していた約82億円から、1.5倍の123億円に大幅に膨らむことがわかりました。

3月議会一般質問で藤原浩平議員は、この事業は、必要性も緊急性もなく、多額の費用を要する開発事業で財政運営上も問題だとして、中止を求めました。

また、市の中期財政見通しでは平成31年度末の基金残高が5800万円になっていたが、1.5倍に膨らんだこの事業を財政見通しに反映させると基金残高はいくらになるか。将来の公債費（借金返済費）の影響が大きいと、1.5倍に膨らむ前後の償還ピーク時の額を示せと質問しました。

これにたいして鹿内市長は「来年度予算を国に要望する期限の4月末までに駅周辺整備事業の実施の是非を含めて判断する」と答えました。また同事業を実施した場合の基金残高は、マイナス1億9000万円になる。借金返済のピーク時の10年後には2億8000万円だったものが、4億3

000万円となり、1億5000万円増えると財務部長が答えました。藤原議員は、市役所建設に100億円かかり、さらに120億円かかる青森駅周辺整備に着手す

通路建設はJRに委託
地元に仕事生まれず

青森駅周辺整備事業は、西口と東口を結ぶ東西自由通路をつくり、これに駅舎を併設するもので、東西の人の交流が進むとしています。しかし、青森駅南側に「あすなろ橋」があり、人と自転車は自由に往来していま

す。また、北側にはエレベーターも設置されている「青い海公園連絡橋」もあり、さらに第3の橋をつくる必要は全くありません。自由通路は、「市道」と位置付けられるために、駅舎移転の補償をしなければならず、JRはわずかの負担で駅舎を新築できます。駅舎を新築するために通路を作つてやるようなものです。さらに通路建設はJRに委託されるので、地元業者

れば、財政破たんをきたし、市民サービスの切り捨てが現実のものになるとして、市役所建設を最優先にし、同事業を中止するべきとしました。

に仕事は生まれません。まさに、不要、不急の無駄な公共事業です。

会派の態度

議案・意見書・陳情

青森市子どもの医療費助成条例等の一部を改正する条例の制定について（中学卒業まで医療費を無料化）	可決	○	△	○	○	△	×	○	共
青森市介護保険料の一部を改正する条例の制定について（第6期介護保険料の値上げ）	可決	×	○	○	○	○	○	○	自清
青森市のまちづくりに関する陳情	不採択	×	○	×	×	×	△	○	新政
2015年最低賃金の大幅引き上げと中小零細企業支援の拡充を求める意見書	不採択	○	×	×	○	○	×	○	社
社会資本整備を国の責任実施する東北地方整備曲	不採択	×	×	×	×	×	×	×	市ク
青森河川国道事務所の存続を求める意見書	不採択	○	×	×	×	×	×	×	公
		○	○	×	○	○	○	○	無

共↓共産党、自清↓自民清風会、新政↓新政無所属の会
社↓社民党、市ク↓市民クラブ、公↓公明党、無↓無所属
（○↓賛成、×↓反対、△↓一部賛成）



青森駅周辺整備事業概要図